令和元年度　琴浦町事業レビュー（２日目）　評価結果及び意見一覧

１．実施日、対象テーマ等

実施日	事業名	町民評価員
【２日目】 令和元年 11 月 10 日(日)	⑤社会福祉協議会補助金	19 人
	⑥シルバー人材センター運営補助金	19 人
	⑦商工会補助金	17 人
	⑧観光情報発信業務	17 人
	⑨白鳳祭	17 人

２．評価基準

評　価	評価の選択基準（評価理由の例）
(1)不要･凍結	○税金を使う必要なし（事業の廃止） ○事業廃止を含めてゼロベースで見直す（事業の一時凍結） ○事業の目的が既に達成されているため不要 ○事業予算を執行することが目的となっているため不要（手段が目的化） ○事業の効果なし（薄い）･逆効果 ○サービス受給者の自助努力･自己負担 ○行政の役割終了、民間実施　（税投入の必要なし）、他事業との重複 ○広域（国･県など）でのサービスであるべき など
(2)琴浦町改善	
(2-1)抜本的見直し	○実態を把握すべき　○効果が不透明 ○成果の捉え方を再検討するべき　○事業の手法を大きく見直す必要がある ○民間委託の実施･拡大をすべき（指定管理者制度を導入すべき） など
(2-2)一部見直し	○継続すべきだが、規模を縮小すべき　○事業の手法の一部改善が必要 ○受益者が負担等をすべき　○入札等における競争性を強化すべき など
(3)現行通り又は拡充	○大幅な見直しは必要ない　○効果があるため、より注力すべき ○今までのやり方のままで、さらに事業費を増額すべき など

３．評価結果

※［ ］書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、コーディネーターの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

事 業 名	(1) 不要･凍結	(2) 見直し	(2-1) 抜本的見直し	(2-2) 一部見直し	(3) 現行通り 又は拡充
⑤社会福祉協議会補助金	0	16 ［4］	4 ［3］	12 ［1］	3
⑥シルバー人材センター運営補助金	2	13 ［4+1］	5 ［2+1］	8 ［2］	4
⑦商工会補助金	1	12 ［4+1］	3 ［2］	9 ［2+1］	4
⑧観光情報発信業務	1	15 ［4+1］	11 ［2+1］	4 ［2］	1
⑨白鳳祭	1	8 ［4］	2 ［4］	6	8

⑤ 社会福祉協議会補助金

評　価		評価に添えられた意見
(1) 不要･凍結	0	
(2)見直し	16 ［4］	
(2)-1 抜本的見直し	4 **[3]**	●社会福祉協議会でなければできない事業なのか？そうでないのか？整理を抜本的にするべき。建物の管理（町への移管、浦安地区公民館との複合化）などは具体的であり、公共施設の整理、統合などもあわせて検討が必要●福祉センターの管理は社協以外がやっていく方が良い。事業の手法は、「社協独自」、「町との連携」、「町からの委託」をはっきり分けた方がよい●社協の施設は外側からしか見たことがないが、他に利用できることがあれば大いに活用したら良い（学生が勉強できる場などいろいろ）●事業分別が明確ではない。「町からの補助」、「町からの委託」をはっきりする必要がある。成果及び効果が分かりづらい。 ▼審議員の評価･意見 ●事業の区分け（町の役割＝委託、町と社協の協働＝補助、社協の役割(独自事業)＝０）。センター施設の町への移管●補助対象を人件費より、事業成果単位に見直すべき。社会福祉センターを町へ移管（後に有効利用）●補助金の大きな部分を占めている社会福祉センターは町に移管し、浦安地区公民館の移設を含めて有効利用。事業費補助にシフト。事業によっては委託事業への変更も必要
(2)-2 一部見直し	**12** ［1］	●建物の管理費が多く占めていることに驚いた。公民館との共有も今後、人口が少なくなる時代には考えなければならないかも。町民の９割が何かの形で関わる社協は大切な存在であるが、町の責任である分まで任せられていることもあるとは知らなかった。補助から委託とすることで、より活動しやすくなることもあるのでは。●福祉センターの施設管理については、見直しが必要。「社協でなければ」と言われたが、他の社会福祉法人や事業所でもできることはあると思うので、そこはもっとオリジナリティを考えて欲しい。事業も明確化して地域や他でしていることの取りまとめや協力体制を整えたり、「社協だから」ということを明確にして。地域に入ってもらうのは大切。社協の方々が頑張っているのはよく知っているのでもったいないと思った。●社会福祉センターの有効利用をするべき（一部改善が必要）。地域福祉に係る事業のうち、町と社協の区分けをするべき(補助金を減らすことができる)●人件費だけの補助ではなく、事業の補助にウェイトを置く。事業を進めるにあたって、人はどれくらい関わるかも入っていると思う●福祉対策について町と社協がもっと話し合う必要がある●障がい者の長期入院、転院時の必要書類作成など専門性が必須である。●町と社協だけで対応を考えるのは限界があるのでは？得意分野を持つ民間団体を育成し役割分担する発想は存在しないのか●コストの適切な管理（町はどこに補助をすると目的に対してどの程度効果があるのかを分析）。事業についての整理が必要●センターの管理体制は見直すべきだが、施設を十分に活用するイメージ、メリットがあまり思い浮かばないため、町有施設とすべきか悩む●社会福祉センターの管理運営を町に移管又は町へ貸して多機能施設にしていくべき●公共性の高い事業でもあり、利用者も多数になりますが、利用者負担の面も含め、事業(活動)の見直し。ボランティア活動や民間企業への委託を進めて行ってはどうか●障がいのある方の送迎を止めたりとか大して協力してくれていないのに町が補助する理由が分からない。管理や維持に費用がかかるのであれば、浦安地区公民館と統合すれば良い。 ▼審議員の評価･意見 ●補助の考え方について、人件費補助をできる限り減らし、事業費補助のウェイトを高めていく努力。社会福祉センターの所有を社協から町に移管し、公共施設全体の見直しの中で考えていく。防災福祉マップは、社協補助だけではなく、行政として委託事業として位置付け。
(3) 現行通り又は拡充	3	●社協は今まで実施してきた介護保険事業、介護予防事業などの事業撤退。収入にならない事業は他に回すのではなく、町が中心となって補助金も使って行ってもらいたい●民間とは異なる福祉サービスの内容がよく分からないので、より明確にして住民に知らせるべき。そのためにもさらに充実、発展させるべき。高齢化社会にあってたいへん大切な分野である。

⑥ シルバー人材センター運営補助金

評　価		評価に添えられた意見
(1) 不要･凍結	2	●行政の役割としては必要ない。民間で実施し、それに補助金を助成。社会として高齢まで働けるしくみづくりの方が大切。
(2)見直し	13 ［4］	
(2)-1 抜本的見直し	5 **［2+1］** **(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ含)**	●作業内容のニーズの把握と新規会員確保のしくみづくり。民間運営にした方が良いかも。需要と供給のミスマッチの解消。シルバー人材センターの会員になることの社会的ｲﾒｰｼﾞの把握。会員の友の会、利用者の友の会の運用を考えてみては？働くことと地域奉仕など 60 代以降の世代の活躍をトータルでアプローチすべきではないか（行政の縦割りを超えて）●ニーズは十分にある状況なので、まずはシルバー人材センター、ハローワーク、住民、地域福祉協議会、有償ボランティア等で協力しあってニーズとのマッチングをすべき。シルバーの方々の働く場をシルバー人材センターに一元化して、総合的な制度再設計が必要ではないかと思う。収入確保による事業拡大を目指さなくても良いのでは●目的から見直すと再雇用などの制度で定年がほぼなくなりシルバー人材の減少が起こっても、当初の目的は(国の制度側で)達成できているため問題が無い。従って現体制のまま維持する理由は弱い。草刈りなどの需要の高いものは別枠にして、若い人材も混ぜて解決する方が時代に沿うのではないか。●事業としては素晴らしいが、民業の圧迫にも配慮が必要。庭師、表具師、建具師など次世代の担い手育成の機会損失の原因になっているかもしれないので、支援を検討。補助金を減らして独立。若者の労働機会も考えて欲しい●少子高齢化時代のシルバー人材センターの役割･機能について、ニーズ調査による時宜に合っている取り組みが必要。高齢者の活躍の場を広げるべき。 ▼審議員の評価･意見 ●シルバーのあり方（方向性）をしっかり検討すべき。年間を通した安定した業務を求めるのであれば、ハローワークとの連携も視野に入れてはどうか●行政としてのシルバー人材センター位置づけを明確にすべき。制度に沿って行うという発想を変えていく。福祉に特化していくなら社協との整合性を考える。シルバー人材センターの位置付けは全国で大きく異なってきている。再度、町として考えていくことが必要。
(2)-2 一部見直し	**8** ［2］	●全て広域化や民間業者への移管は難しいが、風土的に地域性で協力的なところもあれば、無関心な地域もあるので、できる作業を絞ってサービスを続けてはどうか。民間にできることもたくさんある●社協がヘルパー事業をやめてしまうのであれば、民間、シルバーにお願いする方法で対応するのが納得いかない●仕事の需要があっても対応しきれない現状であるならば、会員の増加をする必要がある。増加の賃金改定、仕事分野の多様化●働き方や料金について見直すことも必要。登録者の集め方も待っているだけではなく、他の方法も考えてみては（頼まれたら、やろうと思う人も）。NPO は簡単では無いと思うし、シルバーだから任せられるということもある。ハローワークや有償ボランティアとの連携もいいと思うので、もっと考え方を変えてみる必要もある。シルバー人材センターはありがたい事業です。税金を使っているのも分かっています。それで両方が幸せなら一番ですよね●料金単価を高くしても継続すべきだと思う●ハローワークとの連携など体制を変えてみるといいかもしれない。ニーズを知る意味でも、ハローワークとの情報連携が必要●人数が増えないのは、公的年金が少ない人は年間就労を希望している人が少なくない理由でもあると思う。シルバーに登録する人は、社会との繋がりを求める人でちょっと小遣いを得られたら良いという人ではないか。賃金を引き上げれば登録が少しは増えるかもしれない。●いまでも高齢者の多い町で、これからも高齢者が増えるのでシルバー人材センターの制度は必要。年の若い方に草刈りとか何かの資格を取らせてあげてもいいかも。仲良しグループに任せるだけではダメで、別れて作業してもらえれば良い。 ▼審議員の評価･意見 ●作業単価の見直し。町民のニーズ機会損失をなくす。請け負うシルバー人材センターの業種の幅を広げる●ある程度市場原理によって料金設定（料金の見直し）。シルバー人材センターの将来の方向性を見出す時期ではないか。
(3) 現行通り又は拡充	4	●定年延長や再雇用が今後、増加する中で会員数は減少するが、特に荒廃農地が増える中で、シルバー人材センターは貴重である。より一層会員を増やす方策が必要●会員拡大。サービス料金の見直し●効果があり、会員の加入の募集をするべき●現行通り（時期に応じて料金の見直し）

⑦ 商工会補助金

評　価		評価に添えられた意見
(1) 不要･凍結	1	●事業者の努力が足りない。事業主、従業員が一丸となって頑張るべき。
(2)見直し	12 ［5］	
(2)-1 抜本的見直し	3 ［2］	●効果が不透明でよく理解できない●会員数増を目標にする理由や町としての企業支援の位置付けなど、不明確な部分が多い。「会員のための商工会」とするならまずその実態を把握するべき。●消費者的にはｲｵﾝや業務用ｽｰﾊﾟｰが町にできて欲しい。雇用も町外からの来客も増える。 ▼審議員の評価･意見 ●町と商工会の役割分担を明確にし、成果をしっかり把握できるように。補助金のしくみを分かりやすく（対象となる人件費流れ、根拠）。町の事業所が何に困っているのかを把握して協働して取り組むこと ●県内高等教育機関学生のｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟをして人材不足対策。人件費補助の支出対象は商工会連合会への補助が正しいのではないか？商工会と町の支援方策のすりあわせが必要。
(2)-2 一部見直し	**9** **［2+1※］** ※ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	●こどもが就きたい職種に就職するため県外に出るのは仕方がない●事業の手法の一部改善が必要●補助金の対象となっている商工会の成果検証が十分でないため、その検証について町が率先して商工会へ促すことも必要かと思う。廃業数比較や若者の定着率の把握。PDCA ｻｲｸﾙの C がまったく機能していないように思える●商工に関する専門性は商工会に任せる。役場は組織体制などへの支援を行うべき●後継者不在の事業者が多い中、後継者確保のための行政支援が必要。商工会の指導の中に新規事業の提案はできているか？行政の人材確保、商工会の経営指導強化が不可欠。途絶えさせてはならない伝統的製造品の技術者の確保は商工会と行政が連携して取り組むべきではないか。商工会連合会の下での活動となると琴浦町商工会の独自性は確保できるか●町のために補助が必要●人件費は見直し●経営改善普及、地域経済の発展も重要なことですが、将来の琴浦町商工業の発展に寄与する人材（起業家）を育成する組織を設けたらどうか●商工会に入る理由とその利点はたしかにあり、継続すべき。しかし、加入する事業者の取り巻く状況が変化しつつあるので何かしたら目指すものや形態を変化させていく必要がある ▼審議員の評価･意見 ●現状では 650 万円の投資効果が把握できない。毎年度、補助額が定額になっている。事業所数に応じて商工会連合会に人件費を負担するなど仕組みの問題もあるが補助の仕方の見直しを検討する。町内の会員と非会員の売上推移や廃業件数を見ることで商工会のﾒﾘｯﾄが見えてくるのでは？●町の事業との役割分担をより適切なものにしていく必要がある。人手不足については、労働力の取り合いだけにならず、持続可能なあり方を探っていく必要がある。
(3) 現行通り又は拡充	4	●現状で良い●商工会は地域経済の見張り番なので納税者を守る意味でも支援の継続が必要。新規事業者の応援も頑張っていただきたい。●町の活性化、ｲﾒｰｼﾞｱｯﾌﾟ、働きがいの育成のためには、商工会の負担額の決定など再検討して、継続が望ましいと考える。一次、二次、三次産業とも地域活性にはとても大切。

【２日目】令和元年 11 月 10 日（日）　※［ ］書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

⑧ 観光情報発信業務

評　価		評価に添えられた意見
(1) 不要･凍結	1	●観光客を増やしたいのに町内にしか観光便りを配っていない。観光協会の職員は、観光を分かっている人にしてもらった方が良い
(2)見直し	15 ［5］	
(2)-1 抜本的見直し	11 **［2+1※］** ※ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ	●組織的にすっきりさせる（補助事業へ）。組織内に民間の活力を取り入れる（職員）。観光協会の事務所の位置を知らない人が多い。●鬼太郎ロードの通りの店は閉まっている店が多いが、年々、観光客は増えており、全国への宣伝が上手なんだと思う。塩谷定好写真記念館は、古い空き家となっていた本家を直し、地域の方々が協力して、活性が見られます。金を使わなくてもやり方次第●福嶋先生がおっしゃっていた「観光の目的を関係人口の増加にすべき」などの考え方にシフトすべきだと思う。例えば町民の特性をアピールするなど、情報発信の内容が変わってくる●組織的に行政と繋がりすぎて、行政の仕事と変わらないため、切り離して民間のノウハウが必要。観光便りは、目的として外に向けたものであるのに、内に向かって配っているが、もう一度、目標や目的を定めるべき●観光情報発信は観光協会自身の目的のため、委託から補助へ見直すべき。観光協会だからできることの棲み分けをしっかりすべき。情報発信に留まらず、DMO 等の仕組みの活用といった内容の業への拡充●町内の PR や資源などの特徴が曖昧である。琴浦町はどういう町なのかを分析し、他町との差別化を行った上で戦略戦術を練り直すべき（手法を大きく見直す必要あり）●観光協会と町との位置関係が不透明。体験型が望ましい（ちくわ作り、まんじゅう、ブルーベリー、梨）。パンフに行きたいと思う場所がない●観光協会の職員は、長年行政に関わっていた人では役場目線でしか物事を見られないのではないか。もっと一般住民目線で物事を見られたり柔軟な発想を持った人にやってもらいたい●役場の課長の退職後の席であってはダメ●お祭り感がない。めったにない山陰道の道の駅琴の浦ですが、もう少し大きい方がよかった。食堂以外にも、外で食事ができるスペース、ファーストフード的なお店など、週末だけでも立ち寄ってくださったお客様が疲れを癒やし、楽しんでいただける工夫が欲しい。八橋の中井旅館を再開していただきたい。●具体性、戦略性を明記した観光ビジョンが必要。琴浦町単独エリアの観光戦略の組み立てが必要。琴浦町の入り込み客の内容分析と共に、着地対応または通過客対応の多様な戦略が必要になる。道の駅での立ち寄り者の聞き取り調査等により真の琴浦町の入り込み客のデータを整理する●町民の理解も含め、会費の増額や一般町民や民間の方に自由に会員になってもらえる制度づくりを行って意識の高まりを期待する。それが成果として現れれば、補助金の拠出も減っていくのではないか●もっと大きな企画を行いクラウドファンディングの活用も考えられては？審議員の言うとおりターゲットが違っているように感じた●会費及び寄附金で行う事業は、基本的に町内･町民に対するものとし、町委託料分については、県、国内、海外に対する PR を行う経費に使う。継続して事業を続けて欲しい。 ▼審議員の評価･意見 ●地元の魅力を何としているのかわからない。Web サーバーのアクセス解析などテクニカルな分析に基づくニーズとターゲットの絞り込みが必要。観光協会職員 3 名では難しい●補助事業に変える必要がある。協会スタッフや窓口にもっと民間感覚を持った人や観光ガイドの経験者などを迎え入れて欲しい。お金を落として欲しいという発想はやめたい
(2)-2 一部見直し	4 ［2］	●道の駅も人気ですし、来客数も増えているようであれば、次は琴浦ファン、リピーターを地域に増やす●お金を落としてもらうだけじゃなく、本当に琴浦町を応援する人に来てもらう ▼審議員の評価･意見 ●「委託」から「補助」への変更が必要。施設管理を委託した方が良いのでは？鐃絵の保存など将来を見据えた対策にも注力。道の駅琴の浦にも鐃絵を展示しては？●観光協会には、町内の旅行好きな人材を加えてみては？●観光戦略を策定するにあたって琴浦を中心に考えるのか明確にしていく。インバウンド対策をするにあたってどのくらいの外国人観光客が増えているのか可能性があるのかの把握が必要。観光資源を活かす時には、外にだけ目を向けるのではなく、中の人が魅力に感じていることがにじみ出ることを考えて欲しい
(3) 現行通り又は拡充	1	

⑨ 白鳳祭

評　価		評価に添えられた意見
(1) 不要･凍結	1	●いったん凍結し、「祭」のあり方を問い直していくべき。行政におんぶすることは止めて、琴浦の祭りはどうしていくべきかゼロからやり直すべき。行政はサポートに徹するべき。
(2)見直し	8 ［4］	
(2)-1 抜本的見直し	2 **[4]**	●町補助金を投入して祭りをすることは原則ダメ。実行委委員会または観光協会が主催なのが本筋。白鳳祭のネーミングから協議会の主催とかにする案も検討すべき●琴浦３大祭りと位置付け琴浦町の魅力を PR●実行委員会はそれぞれの祭りに設けるが、統括的な体制として琴浦町、観光協会、商工会で構成し企画する。国の特別史跡斉尾廃寺の歴史文化を PR する。波止の祭りと白鳳祭の開催時期が１週間程度しか違いが無いため白鳳祭を９月下旬頃にしては？来場者の構成（町内者、町外者、大人、こどもなど）を把握し、コンセプトの明確化が必要。安全性を確保するために行政の役割が不可欠であり、中途半端な行政の立ち位置ではなく、祭りの企画運営を役場も一体的に実行委員会として取り組む ▼審議員の評価･意見 ●実行委員会のノウハウを継承。中学生などの若者の実行委員会への参画。旧２町の夏祭りの各コンテンツの特色化。役場職員としても実行委員会への参加。補助金から負担金へ変更。「３大祭」化 ●今年度からの大きな変革の流れは素晴らしい。単に祭りが円滑に進むことだけではなく、住民と行政の関係の構築の観点からも重要。行政は庁内の祭りのコーディネートに重点を置き、白鳳祭はさらに住民主体になるよう進めていく。副実行委員長の熱意と行動力に敬服。「人が変わると商品が変わる」の意味を改めて感じた。●実行委員会への「補助金」は「負担金」とする。民間主導にシフト●住民、民間が中心になり今の抜本的見直しを発展させて欲しい。実行委員会に役場も入る。補助金から負担金へ。「３大祭」化を目指すのも素晴らしい
(2)-2 一部見直し	6	●実行委員会がこんなにうまくやってこれたとは思いませんでした。「行政実行にはクレーム有り、民間にはクレーム無し」本当にそのとおりだと思います。出店料についても１万円から４万円に実行できたのも町民主体の実行委員会だからだと思います。●寄附や物品の売上げなど収入を増やす工夫をすべき。町の税金負担を少しずつ減らしていくと良いと思う。小中学生らが大人になっても心に残る祭りにできたらよい。都会の子に比べて楽しみの少ない子どもたちが喜ぶように●民間主体にもなったし、町民の意思でできるのなら、他の市や町とかの祭りと同じ日なので、毎年８月の第１日曜とかこだわらないで開催日を変えてはどうか●実行委員会に行政も混ぜて運営に参加する。実働している団体が少なく感じた。特に青少年といった若い世代を積極的に巻き込み、後の世代にも繋げていくのが理想だと思う●催し物は住民主体が望ましく、町としては寄附金として拠出した方が良い。令和元年のように民間の実行委員会に任せましょう●今年から住民主体の祭りになったので、この流れが止まらないように続けてやって欲しい。副実行委員長が持っている熱意、想いを下の年代も巻き込んでいけるようなことも考えて欲しい。町はこれまでどおりお金を出してください。
(3) 現行通り又は拡充	**8**	●こどもの思い出づくりに祭りは大事だと思う。お金のことも大事だが、祭りの内容も大事かと。見ている人誰もが楽しめる出し物。出ている人もしくはその身内なり、仲間の人だけで盛り上がっている出しものだかであれば、目的が「花火だけ」となる。広い年代、外から来られる人も楽しめて、来年も楽しみだと言ってもらえる大イベントになることを望みます●鳥取市出身で子どもの頃テレビで傘踊りを見て隣のお姉さんが映っていて、自分も大きくなったらあそこで踊りたいと考え、県外に就職しようとは思わなかった。卒業後、県内に就職して結婚して琴浦に移るまでは、毎年参加し踊りました。白鳳祭も毎年実行委員会として参加し続けたいと思う若者がいれば地元に残ってくれるのでは？年を取ると地元へ関わりお礼をしたいと考えるようになりました。退職後のやりがいをも作っているところです●祭りに若者の力が集まる姿は見ていて気持ちのいいものです。どうか引き続き、この勢いを保って、中学生や高校生に地域や多世代の人に関われることで誇りを持てる祭りに。素晴らしいきっかけになれると思います。「琴浦３大祭」いいですね●自分の部落でも毎年夏に祭りをやっていますが、部落民が一丸となってやっている。町の補助は一切望まず、部落一丸となって続けています●大幅な事業の見直しがあったばかりなので、少し様子を見るのも良い。町内に１つくらいは他町に誇れるイベントがあっても良い。琴浦町の財政見通しは厳しいようだが、それは行政のスリム化（庁舎３つを一箇所に集中など）すれば良いと思う●新体制による例が今年しかないため、これからの継続性に焦点を置いて考えていたが、副実行委員長さんの熱い想いとその考え方から安心であると思う。だが、副実行委員長だけの意見にならないように注意すべきである●大幅な見直しは必要ない。効果があるためさらに拡大するべき●体制が変わって１年目なので善し悪しを見て行くには、現行の体制で状況は見るべき。制度的には現状のままで、その中に関わるステークホルダー（住民･行政）の長所を活かした役割分担または協力の方法を探って行くことは必要であると思う。